

DX時代の企業と情報システム～次世代型ビジネスプロセスエンジニアの役割とイノベーションを生み出す超上流作法【会場】（4124147）

DX時代の企業と情報システムにおいて大きく2つの視点から学びます。まずは次世代型ビジネスプロセスエンジニアの役割について、企業の意思決定に必要なビジネス・プロセス・エンジニアリングを学びます。次にイノベーションを生み出す超上流作法について、新しい攻守のITにおける超上流のアプローチ「論理×創造」を、手を動かしながら学んでいきます。

開催日時	2024年12月16日(水) 18:00-17:00会場 2024年12月17日(木) 18:00-17:00会場
カテゴリ	事業戦略策定・事業戦略評価 15戦略策定・15戦略評価・15企画・15企画評価 詳しく見る
講師	伊藤 啓太 【株式会社email 代表取締役】 石川 17 年間に、経営からマーケティング、販売までを担い、業務システムのグローバル展開から先端技術を活用したAIプロジェクトに参画し、JUSISを立ち上げ、現在ビジネスの革新や企業内イノベーション方法を研究、創造内発によるアイデア発想と論理的思考からの創造性検証をメソッド化に成功し、DXプロジェクトに対応するフレームワークとしてイノベーション推進フレームジ（IPD）にて公開。出版スタイルの異業種共創プログラム（Challenge）として、自ら自らリーダー兼～兼務している。 【JUSIS 代表取締役】7% 取締役 1 名 専務 1 名 副専務 1 名 理事 1 名 監事 1 名 役員 1 名 取締役 1 名 専務 1 名 副専務 1 名 理事 1 名 監事 1 名 役員 1 名 【株式会社 日本経営システム ユーザー定数 1000 名以上】 【株式会社 日本経営システム ユーザー定数 1000 名以上】
会場	17 部門に専任に転職した方、新入社員～現役中絶位の専任社員 詳しく見る
開催形式	講義、グループ演習
定員	25 名
参加ポイント	※17 部門のカギポイント対象のセミナーです。（詳細はポイント）
IPD 関連情報	12

主な内容

■ 受講形態

会場のみ（オンラインなし）

■ テキスト

当日配布

■ 開催日までの課題事項

特になし

DX時代の企業と情報システムの関係において大きく2つの視点から学びます。

まずは企業の意思決定に必要なビジネス・プロセス・エンジニアリングを学びます。

次にイノベーションを生み出す超上流へのアプローチ「論理×創造」を、手を動かしながら学んでいきます。

◆ DX時代の企業と情報システム 1

～次世代型ビジネスプロセスエンジニアの役割

DXという言葉が日常的に聞くようになりましたが、ユーザー企業やその情報部門において、DXとはどのような意味や範囲をさすのでしょうか。

ユーザー企業の経営層やユーザー部門からも最新テクノロジーを活用した業務変革の期待をされることがありますが、流行りのAIや高価なパッケージソフトを導入すれば、IT先進企業に生まれ変わるものではありません。

ビジネスとテクノロジーの両側面を理解し、距離（関係性）を埋めるのが情報システム部門（あるいはDX推進部門）の大きな役割です。

従前の経験や勘などではなく、データとアルゴリズムによって、ビジネスの意識決定や課題解決などを行うにはどうしたらよいか。

次世代型のビジネスプロセスエンジニアとしての役割を学びます。

◆ DX時代の企業と情報システム 2

～イノベーションを生み出す超上流作法

デジタイゼーションとデジタルイゼーション。言葉は似ていますが、意味は大きく異なります。

DXを推進するにあたり、必要なのはデジタルイゼーションです。

それでは、これに必要なスキルは何でしょうか。

問題解決や生産性向上のあらゆる場面において、ロジカルシンキング（論理）はビジネスパーソンには当然必要です。

そこにさらに、新しいことを考え出す感性、イノベーションを生む創造力が不可欠になります。

本講座では、ビジネスイノベーションのしくみと新しい攻守のITにおける超上流のアプローチ「論理×創造」を手を動かしながら学んでいきます。

■ 参加者の声

考え方や事例を交えて話していただいたため、とても理解しやすかった。

ビジネスプロセスエンジニアに求められる思考法を、非常にわかりやすく教えてもらえる。

実践したワークも身近なテーマを基にしたものが多く、どんなバックグラウンドを持つ人でも理解しやすい内容と感じた。